

6.5 教育の質の向上

進捗状況報告

シラバスのより一層の充実を図ることはもちろんのこと、カリキュラムに関しても大学院カリキュラム委員会において毎年、見直しを行なっている。たとえば、前回改定で新たに設定された「プロフェッショナル・コース」での指導方法にあいまいさがあることが判明したため、同コースにもマスター・セミナーを設け指導体制を強化することを予定している。また、懸案であった英語のみで修了可能なカリキュラムについては、国際政策の分野で2009年度より実現することとなった。

全学的な取り組みのもと、本研究科においても2008年度から授業評価を実施している。また、大学院でのFD活動としては、総合政策学部研究会において外部講師を招いてFD研修会を行なっている。なお、キャンパス・ミーティングは学部との合同開催である。

学内第三者評価

カリキュラムについて毎年見直しを行って、改善に向けた取り組みがなされていると認められる。2007年度の自己点検評価で報告された学生による授業評価の状況についての記述が望まれる。総合政策研究科では、学部で行われている「キャンパスミーティング」といった制度が導入されているかについての記述を期待する。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
問題点や懸案事項については、逐次解決が図られていると判断される。
義務化された「FD活動」についての記述が見られないが、教育・研究指導方法の改善への組織的取り組みはどの程度まで進展しているのだろうか。